

平成25年度成果報告書《平成24・25年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号		36		都道府県・指定都市名		徳島県	
ふりがな 学校名				かみかつちようりつ かみかつしやうがっこう 上勝町立 上勝小学校			
学年等	1	2	3	4	5	6	特別支援 計
児童生徒数	6	8	8	15	9	12	3 61
単式・複式	単	単	単	単	単	単	単 8
	1	1	1	1	1	1	2
H25.5.1 現在 へき地学校の級(準級), 教員数(12)				学校・地域の特色及び実態等 ・上勝町は、過疎化と高齢化が進む中、「町づくりは人づくり」という教育優先施策を掲げ、後継者の育成と町おこしの盛んな町である。 ・本校は、学校教育目標を「心豊かに たくましく 生きる力を育む」と設定し、「ふるさと教育」を教育活動の柱の一つとして位置付け、ふるさと「上勝」の人・自然・歴史を取り入れ、地域と一体となった教育実践に取り組んでいる。			

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：徳島県勝浦郡上勝町大字正木字平間 179

電話番号：0885-45-0003

メールアドレス：kamikatsu_es@kamikatsu.jp

学校のホームページの URL：http://e-school.e-tokushima.or.jp/kamikatsu/es/kamikatsu/html/htdocs/

【研究成果のポイント】

- 研究のキーワード： ・かかわり合う ・伝え合う ・高め合う
- 研究成果のポイント： ・地域との連携 ・他教科との関連 ・活動と評価の一体化

【研究の目的， 研究内容】

(1) 研究主題

ふるさとを愛し、未来を拓(ひら)く上勝っ子
～かかわり合い，伝え合い，高め合おうとする子どもの育成をめざして～

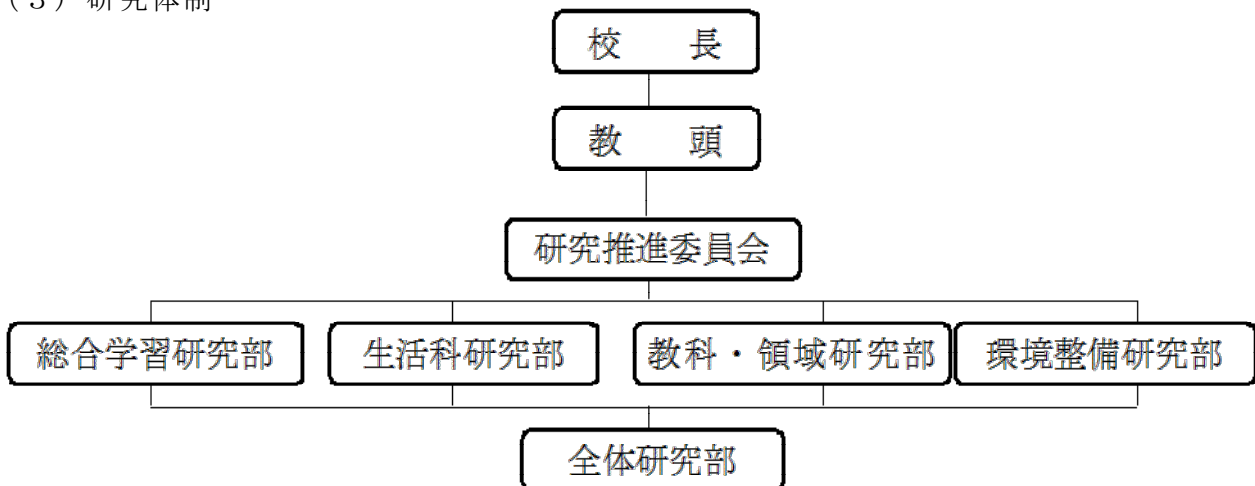
(2) 研究主題設定の理由

子供たちは、誠実で素直であり、協調性に富んでいる。しかし、固定化された人間関係の中で、自分に自信がもてない児童や他者と関わる力が不足している児童も見られ、新学習指導要領で求められている思考力・判断力・表現力等や、主体的に学んでいこうという態度の面で課題が見られる。

一方、本校の校区は広く、山間に集落が散在しており、地域の「ひと・もの・こと」に出合い、ふれあう機会が少ない。そのため、地域の素晴らしさに気付かずにいる子供たちが多い。

以上の実態から、地域の人々や自然，産業との関わりを通じた豊かな体験を積み重ねていくことで、ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思う心が育ち、それがこの素晴らしい地域で生きている自分への自信へとつながると考えた。さらに、この活動の中で、仲間と関わり合う場面を設定したり、そこでの指導方法の工夫改善をしたりすることで、最終的にはよりよい未来を切りひらくことのできる力、切りひらいていこうとする態度も育つと考え、本主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組の経過

平成24年度	①研究計画の立案 ②研究主題についての共通理解と研修 ③「彩りタイム」のカリキュラム及び指導案の形式についての検討 ④講師を招聘したふるさと学習についての研修会 ⑤1～6年生，特別支援学級の授業研究会 ⑥「彩りタイム」のアンケート結果の考察と課題検討（9月・2月） ⑦平成24年度教育課程指定校事業担当指定校訪問 ⑧教育課程指定校事業研究協議会報告資料作成，勝浦郡小教研研究紀要作成
平成25年度	①研究計画の立案 ②研究主題についての共通理解と研修 ③1～6年生，特別支援学級の授業研究会 ④「彩りタイム」のアンケート実施と考察（7月） ⑤平成25年度教育課程指定校事業担当指定校訪問 ⑥研究紀要作成 ⑦第60回徳島県へき地教育研究大会（公開授業・研究発表 等）

(5) 具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

地域の教育資源を生かした特色ある教育活動を展開するためには，教材の開発と教育計画の検討に加えて，課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育てるための学習指導法の工夫改善，さらにはそれを支える基本的な能力の育成等について実践的に研究を進めることが大切であると考え，以下の3つを柱として研究に取り組んだ。

- 「ひと・もの・こと」との『かかわり合い』を重視した豊かな体験学習の推進
 - ・各教科領域との連携や学年間の系統性を考慮した，生活科・総合的な学習の時間（彩りタイム）における，「上勝の『ひと・もの・こと』の教材」の開発とカリキュラムの検討・修正
 - ・体験活動の単元における学習過程（課題設定・情報収集・整理分析・まとめ表現）の確立
- 『伝え合う』活動の充実
 - ・話し方・聞き方の指導方法の工夫
 - ・常時指導や各教科領域での実践
 - ・全校集会活動（1Q（いっきゅう）タイム）・学校行事等での実践
- 相互に『高め合う』ための活動や評価の充実
 - ・相互に高め合えるような話し合い活動の工夫と評価法の改善
 - ・高め合うために様々な人との交流活動（異年齢・保護者・地域の方）の推進

【研究成果とその意義等】

(1) 研究成果と課題

- 上勝の「ひと・もの・こと」に繰り返し関わることによって，郷土のよさを認識するとともに，郷土を支えてきた人々の知恵，思いや願いに気付くことができた。また，地域の新商品開発・販売活動などでは，困難な課題に対しても，仲間と関わり合いながら新たな解決策を考え出し，さらに自信をもって上勝のよさを一般の方々にアピールする姿などが見られた。
- 話し合いのグループを段階的にペア，班，全体へと広げていったり，付箋を使い視覚的に考えが分かるようにしたりするなど，発表や話し合いのパターン化を図り，全ての教科等で継続的に指導することで，話し方，聞き方が身に付き，話し合いに深まりが見られるようになった。
- 見学・活動カードや振り返りカード等を活用した評価を充実することで，次の活動に発展させやすくなった。
- 体験活動を行う場合には，興味関心をもたせる活動，調べる活動，体験する活動，まとめる活動等単元全体を見通して，計画的に行っていく必要がある。この視点から彩りタイムのカリキュラムを再検討したい。

(2) 研究成果の意義等

本研究により，へき地の子供たちに今後の社会を生きていくために必要な力を育むための一つの方策を示すことができたと考え。また，この方策は，どのような地域においても体験活動を検討する際に有効と考える。

(3) 指定期間終了後の取組

- 教育活動全体を通して，各教科等で関連を図りながら，学年間の目指す姿，育てたい力の重点化を含め，検討，修正を図っていく。
- 「伝える力」をさらに高めていくために，日常的，継続的に話し合う活動の場を工夫し，相手意識，目的意識，状況意識等を十分にもたせる指導を行い，学年間での系統（表）の改善を図っていく。